

小学校の先生になり8年目になりました。子どもたちとの学習の中で一番楽しいのは図工です。子どもたちが教材や材料など、様々な出会いの中で自己表現していく姿やその過程に触れることができるのはとても楽しいです。なかなか普段美術教育について学ぶ時間が取れないので、ぜひプラスになることを学べたら！と思っています。みなさんどうぞよろしくお願いします！

畑 優香 旧姓小林

(学部26期/丹波市立上久下小学校)

初任で、3年生を担当しています。図工も専科でなく、自分で子どもたちと一緒にできるのが、悪戦苦闘しつつも日々楽しく授業をしています。よりよい授業づくりのために、勉強したいと思っております！先生方や、懐かしい方々にお会いできることを楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

岡崎 紗佑美

(学部31期・修士37期/芦屋市立潮見小学校)

私の大学院生活での実り多かった学び……。現場に戻って転勤。復帰後の残り少ない現職教員生活の中で、自分なりに4年計画で図工室の環境整備や授業改善を考えていた。

だが、現実には厳しい。「図工は、作業でいいんですよー、西田先生。あの子らに合っていないんです。造形遊びとかいらんのです、高度すぎます。」と言われたり、「参観日の教室掲示用に物語の絵が欲しい」という、陳腐な描き方指定つきのご無理依頼があったり、「〈造形遊び〉の材料費は、児童の教材費からは引き落とし禁止です」という内規に困ったりで……。10年余り前と実は変わりのない、これらの色褪せた現実、どのように立ち向かえばよいのだろうか？

でも、そのような落胆の日常の中に、ある日一筋の希望の光が差し込んだ。それが『AENひょうご』設立のお知らせだった。校内では一人職である図工専科だからこそ、外部とつながりたい。大学院の先生方や先輩方とそしてここに繋がるすべての人々と。。。

今日も山あい三田の地で、地味にしぶとくがんばって呼吸する。

『図工って大事なんだ!!』

西田 牧子

(修士37期/三田市立三輪小学校)

受験を終え、教育大学に入学した当初、それまで自分が受けてきた教育を振り返ったときに、唯一理解できなかったのが美術でした。当時は、そういう認識の仕方でした。しかし、魅力は一方的に感じ続けてきたわけです。結局、志していた数学や理科ではなく、誘惑に負けたかたちで美術に所属しました。以後、立場はコロコロ変われど、今も美術にくっついていきます。はじめに申し上げるべきでしたが、この度、このような機会を設けてくださった皆様には、大変感謝しております。爽やかな風が吹き込むことを期待しております。私自身は中途半端な存在ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

多鹿 宏毅 (学部21期/北はりま特別支援学校)

創設準備事務局では、なりゆきのまま広報デザイン制作を担当、曾左小学校の平野兼伍先生とともに「楽しい悪戦苦闘」を続けているところです。美術教育に関して、楽しい人材交流と真に刺激的で実質的な内容のある情報交換とを目指すうえでは、視覚的な広報も“ちょっと面白い、カッコ良いイメージ”で迫りたい、美術教育をめぐる皆さんの夢と理想をさらに高めるイメージを創出したい！と願っています。イタリア・ルネサンス美術史学専攻の私にとって、デザイン・ディレクションは精一杯の素人仕事なのですが。。皆さまどうぞ暖かくお見守り下さい。

喜多村 明里 (兵庫教育大学教授)